

再 評 価 書

箇所名	主要地方道上野名張線 (蔵持)		事業名	道路事業	課 名	道路建設課 (伊賀建設事務所)
事業概要	工 期 (下段前回)	平成 29 年度～令和 10 年度	全体事業費 (下段前回)	1,220 百万円(負担率：国 0.55：県 0.45)		
		平成 29 年度～令和 10 年度		870 百万円(負担率：国 0.55：県 0.45)		
事 業 目 的 及 び 内 容						
■当該路線の概要 主要地方道上野名張線は、伊賀市と名張市を結ぶ延長約 12km の道路であり、事業区間は国道 165 号のバイパス的役割を担い、安全な移動空間の創出や道路利用者の利便性向上に資する道路です。周辺には商業施設や小学校が立地しており、日常生活や通学を担う重要な路線です。また、周辺には赤目四十八滝や香落溪等の観光資源・施設が存在しています。 事業区間はバス路線にも指定されていますが、線形が悪く大型車同士のすれ違いが困難でバスの通行に支障をきたしています。また、現道は歩道も設置されていないことから歩行者・自転車の安全性も低い状況となっています。そのことにより、周辺観光地へのアクセス性にも支障をきたしています。 このようなことから、自動車の円滑な走行空間の確保、歩行者・自転車の安全な通行空間の確保、観光振興の支援等を図るため、平成 29 年度に事業着手しました。 主要地方道上野名張線（蔵持）の整備によって、線形不良の解消や歩行者空間を確保することで、自動車の円滑な走行空間の確保、歩行者・自転車の安全な通行空間の確保、観光振興の支援を行います。						
■事業目的 ・自動車の円滑な走行空間の確保（バイパス整備） ・歩行者・自転車の安全な通行空間の確保 ・観光振興の支援						
■事業内容 ・事業計画期間 12 年間（平成 29 年度～令和 10 年度） ・全 体 事 業 費 1,220 百万円（工事費：1,215 百万円、用地費：5 百万円） ・計 画 延 長 L＝0.65km（起点）名張市蔵持町里～（終点）名張市蔵持町里 ・幅 員 W＝6.0（14.0）m ・主 要 構 造 物 橋梁工（1 橋）						
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果						
1 再評価を行った理由 平成 29 年度に事業採択後、一定期間（10 年）を経過し、継続中の事業であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条（2）に基づき再評価を行いました。						
2 事業の進捗状況と今後の見込み 2－1 事業の進捗状況 令和 8 年 3 月末時点の事業進捗率は事業費ベースで 49%（工事 49%、用地 100%）となっています。 2－2 今後の見込み 令和 10 年度の全線供用に向け、事業を推進します。						
3 事業を巡る社会経済情勢等の変化 平成 18 年度に整備された名張川河川防災ステーションが、令和 4 年度に名張川 MIZBE ステーションに指定され、隣接するベルウィング武道交流館と連携し、当該地域の地域活性化に寄与しています。また、当該路線沿線では商業施設の新規立地が続いています。これら周辺開発の進展により利用者の増加が見込まれるとともに、周辺道路を含めた安全性向上のニーズから、当該事業の必要性はますます高まっています。						

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】（平成 29 年時）

総費用（C） 9 億円

総便益（B） 50 億円

費用便益比（B/C） = 5.6

② 費用対効果分析の結果

費用便益比（B/C）	総費用（C） （残事業）／（事業全体）	総便益（B） （残事業）／（事業全体）
【事業全体】（参考） 4.8（5.9） 参考〔2％〕 7.1（8.8） 〃〔1％〕 9.0（11.0）	3.2 億円／12 億円 事業費：2.9 億円／12 億円 維持管理費：0.3 億円／0.3 億円	59／59 億円 走行時間短縮便益：53／53 億円 走行経費減少便益：5.8／5.8 億円 交通事故減少便益：0.4／0.4 億円 （参考） 時間信頼性向上便益：13 億円／13 億円 CO2 排出量削減便益：0.2 億円／0.2 億円
【残事業】 18.4（22.6） 参考〔2％〕 25.5（31.4） 〃〔1％〕 30.6（37.6）		

③ 感度分析の結果

【事業全体】	【残事業】
交通量：B/C = 4.3～5.2（±10％）	交通量：B/C = 16.6～20.3（±10％）
事業費：B/C = 4.3～5.3（±10％）	事業費：B/C = 16.9～20.3（±10％）
事業期間：B/C = 4.6～4.9（±20％）	事業期間：B/C = 17.7～18.9（±20％）

※出典：費用便益分析マニュアル（令和 7 年 8 月 国土交通省 道路局 都市局）

4-2 その他の効果

① 商業施設へのアクセス向上

- ・沿線では近年商業施設の新規立地が続いていますが、現道は線形が悪く桔梗が丘地区から商業施設へのアクセス道路として利用しにくい状況にあります。
- ・事業区間の整備により、桔梗が丘地区から商業施設へのアクセス向上など、生活の利便性向上が期待されます。

② バス交通の円滑化

- ・事業区間には近鉄名張駅と伊賀鉄道上野市駅を連絡する路線バス（三重交通）が 23 本/日（平日/両方向）、近鉄名張駅と JR 伊賀上野駅を連絡する路線バス（同上）が 12 本/日（平日/両方向）運行しています。
- ・事業区間の整備により、バス交通の円滑化を図るとともに、ドライバーの心理的負担の軽減も期待されます。

③ 救急搬送の迅速化

- ・現道は梅が丘団地や赤目口方面等の西側から上野総合市民病院への救急搬送ルートとして利用していますが、線形が悪い区間が存在します。
- ・事業区間の整備により、線形が改善されるため、救急搬送時の患者の負担の軽減や迅速化が図られ、スムーズで安全な搬送が期待されます。

④ 観光振興の支援

- ・現道は滋賀・京都方面や名古屋方面から主要観光地へのアクセス道路であるが、線形が悪く走行性が悪い状況にあります。また、並行路線の国道 165 号は混雑しており、観光地へのアクセス性に課題があります。
- ・事業区間の整備により、線形が改善されるため、滋賀・京都方面や名古屋方面からのアクセス性が向上し、観光振興の支援や観光客数の増加が期待されます。

⑤ 歩行者・自転車の安全性向上 ・事業区間周辺は蔵持小学校の校区となっています。児童が現道を横断する際に、信号待ちの待機場所もなく、交通量も多いため危険な状況となっています。 ・事業区間の整備により、現道部の交通量が減少するとともに通学路となるバイパス部には歩道が設置されることで、児童など歩行者の安全性の向上が期待されます。	
4-3	地元の意向
令和7年10月に「名張市」から提出された「国・県道 道路整備の促進について」の要望書では、当該路線について早期の事業完了が要望されております。	
5	コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性
5-1	コスト縮減
維持管理段階でのコスト縮減として、鋼製橋梁に耐候性鋼材を採用し塗替え費用の削減を図ります。また、道路法面の防草対策で張コンクリート工を行い草刈りに要する維持管理費の縮減を行います。	
5-2	代替案
三重県公共事業再評価実施要綱 第3条の視点による再評価の結果、事業主体において、現行計画での事業継続が妥当と判断されるため、代替案はありません。	
再 評 価 の 経 緯	
当事業は平成29年度に事業着手しており、今回初めての再評価を行います。	
事 業 主 体 の 対 応 方 針	
三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点により再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、当事業を継続したいと考えています。	
委員会意見の概要【事業方針作成時に記述】	
対応方針の概要【事業方針作成時に記述】	